

ライフライン事故防げ

札幌建設業協会の労務研究会は、建設工事で地下や架空の電線や配管を破損させ生活や経済が混乱する公衆災害を未然に防ぐため、CD版のライフライン事故防止マニュアルを作製した。過去のさまざまな事例を収録し、もし事故を起こした場合に緊急連絡先が確認できるチェックリストも掲載している。

札幌研がマニュアル作製

地下埋設物、架空線、緊急連絡先も

80社に配布し、経験が浅い現場所長の知識向上や協会の安全教育に利用できるよう、パワーポイントとPDF形式で編集した。

市街地の地下には水道やガスの配管、電線、通信ケーブルが縦横無尽に埋設されていて、施工してみたら図面にはない管路が出現するなどし、誤って損傷させるトラブルが後を絶たない。上空も電線が張り巡らされ、送電線は3m以内近づくと感電する危険がある。

同部会のメンバー8人



は2人一組で各機関を回り、事故事例を収集する。伊藤勝行部会長は「同じ機関でも送電線と配電線、給水管や排水管などそれぞれで緊急対応の窓口が違う。万一の事故を想定し、担当がどこなのかを知っておく必要がある。電信柱の標識番号も意味が理解できるように記した」と話す。

ライフライン事故の防止を願う伊藤部会長（左）と本間副部会長
「光ファイバーを傷つけると、企業の業務に支障が出て何億円単位の損害を与える。水道管を破裂させると復旧してもしばらくは水が濁るので、付近住民から補償料を請求される。自社の信用も失墜する」と過去の代償を教訓とするよう呼び掛けている。
付属のチェックリストにはあらかじめ地下埋設物や架空線を記入し、緊急連絡先が確認できるようにになっている。転ばぬ先の杖として、現場で役立ちそうだ。

本間博司副部会長は

ライフライン事故防止へ

札幌協労務研究会安全環境部会

マニュアルCD 160枚を製作

一般社団法人札幌建設業協会の協賛で、協労務研究会安全環境部会（伊藤勝行部会長）は、「ライフライン事故防止マニュアル」をまとめ、十五日付で初版のデータCD百六十枚を製作した。安全作業の手立ての内容や、大衆被害にもつながるだけに事故後の対応が迅速にできるよう連絡窓口の一覧表を収録している。安全環境部会では、「PDF」と研修用にも使えるようパワーポイントの二種類のデータを取りまとめた。三十代の若い技術者に見てもらいたい」と活用を期待している。

安全環境部会では、有事

の際に迅速な対応が求められるライフライン事故の対策が急務として、二十六年度から事故防止策とその対応を取りまとめた。マニュアルの作成で対象となったのは、①北海道電力㈱②NTT東日本北海道局③北海道ガス㈱④札幌市水道局⑤の四機関。部会の部員八人が二人一組になって各機関と交渉し、事故後の写真や窓口の連絡先、安全作業の手順等の資料を一年かけて取り寄せた。

その後の作業では、各機関の所有する設備の埋設状況等をイラスト入りで分か

りやすく作成。作業にかかわった本間博司副部会長（岩田地崎建設㈱）は「例えば送電線や配電線では担当の窓口が違う。事故例を紹介し安全作業の概要とそのチェックリストも表示し、事故後の連絡一覧表を作った」と話す。

地下埋設物の工事では、光ファイバーを切断すると賠償金額も数億円になるという。部会長の伊藤氏（㈱田中組）は総括として、「企業としての信用を失うことの方が大きい」と言い、ライフラインの対象機関からも評価を受けたそのマニュアルの活用を期待を寄せている。

なお、安全環境部会では製作したCDを会員企業八十社のほか、道建協傘下の地方建協事務局に各一枚ずつ配布。北海道電力など協力四機関にも各十枚配布する。



アル藤会長
ユル伊部司
ニす環境問
マに全環境
成した安全と
CDを勝行（左）と全環境副部会長